

港のまち

古くから天然の良港・北前船で栄える!

敦賀は日本海屈指の天然の良港を有する港まちとして発達してきました。鉄道開通前の敦賀港には北前船によって北海道のにしんや昆布が入荷し、近畿・東海地方からの漁網やむしろ、米や塩などを出荷するなど多くの物資が運ばれました。

国際港として発展した敦賀港!

1899(明治32)年に開港場(外国貿易港)の指定を受け、1907(明治40)年には横浜・神戸・関門(下関・門司)に敦賀を加えた4港が国営に指定され、国際港として発展してきました。

さらに1912(明治45)年には、欧亜国際連絡列車が運行され、敦賀港を経由するルートがヨーロッパへの最短ルートとなりました。

「人道の港」敦賀!

1920(大正9)年~1922(大正11)年にかけて、ロシア革命のシベリアで家族を失ったポーランドの子どもたち763人が、日本赤十字社の救助により敦賀港に上陸しました。敦賀の人たちは、菓子・果物などの差し入れを行うなど、温かい手を差し伸べました。

1940(昭和15)年~1941(昭和16)年、ユダヤ人難民がナチスの迫害から逃れるため、リトアニア領事代理の杉原千畝氏からビザの発給を受け、シベリア鉄道経由でウラジオストクから約6千人が敦賀港に上陸。敦賀市民がユダヤ人に食べ物を提供したり、銭湯を無料開放したりするなどして温かくもてなしたエピソードが残っています。

敦賀

2022(平成34)年度末に、
北陸新幹線が敦賀まで来ます!



鉄道のまち

日本海側で最初に鉄道が走った!

1872(明治5)年に新橋-横浜間で国内初の鉄道が開通し、その10年後の1882(明治15)年に金ヶ崎(敦賀港)-長浜間が開業しました。日本海側と太平洋側を結ぶことを重要視した明治政府が、どこよりも早く計画し、実現したのです。

その後、1889(明治22)年に開通した東海道線に接続し、敦賀は日本海側では神戸・東京とつながる唯一のまちとなりました。

新橋駅(東京)からヨーロッパへ

